

# 医療と介護の連携を目指した取り組み

(大和郡山市)



課題：医療と介護の連携が不十分な状態では包括的・継続的な支援ができない

## 平成20年度高齢者包括ケアモデル事業

- ・市内居宅介護支援事業所のケアマネを対象に実態調査
- ・介護保険における医師とケアマネの連携状況調査(医療機関)

結果

ケアマネは・・・「医師との連絡がとりづらい。連絡して怒られないか・・・」  
 医師は・・・「積極的に連携をとってほしいが、時間帯を考えてほしい」

医療と介護の連携を目指そう

お互いを理解できる関係＝顔の見える関係

そこで

お互いの立場を理解していない事による矛盾が生じている

この結果を基に医師会に地域包括支援センターが医師と介護支援専門員との交流会を提案

医師との連絡方法のマニュアル化を図る事でスムーズな連携を提案

ケアマネタイム作成  
 医師と連絡する方法  
 (時間帯・連絡手段：電話・FAX  
 面会方法など)を冊子にまとめ  
 ケアマネに配布する。

ケアマネタイム実施医療機関一覧表

医療機関名	医師名	連絡方法	連絡可能日・時間	連絡可能日・時間
大和中央病院	橋本 孝	電話	8:00~12:00	9:00~12:00
徳島大学病院	藤田 孝	FAX	8:00~12:00	9:00~12:00
徳島大学病院	藤田 孝	FAX	13:00~17:00	13:00~17:00
徳島大学病院	藤田 孝	FAX	18:00~21:00	18:00~21:00
徳島大学病院	藤田 孝	FAX	22:00~24:00	22:00~24:00

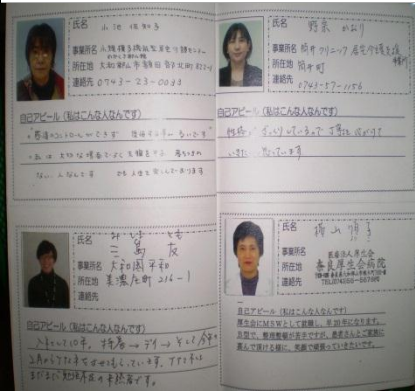
医師会の理解により平成22年より医師と介護支援専門員の交流会開催決定

- ・当初は3ヶ月に1回開催。平成24年度からは毎月開催(医師1名、ケアマネ10名)
- ・開催日は医師の休診日に合わせる。(例：木曜日 午後2時～3時半)
- ・自己紹介カードを作成し、プライベートな話などで話しやすい雰囲気づくりをすることで医師ともざっくばらんに話せる工夫をしている。
- ・医師との情報交換が行える一方、ケアマネ同士の連携も図れる。

顔の見える関係だからこそ連携がとりやすくなります

「交流会に参加してから医師を身近に感じます」

医師の希望する連絡方法を記載することでケアマネも安心して連絡がとれます。





## 地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

① 区町村名	大和郡山市		
② 人口（※1）	89,630人		(H25.4.1現在)
③ 高齢化率（※1） (65歳以上、75歳以上それぞれについて記載)	65歳以上 23,478人	26.19%	( )
	75歳以上 10,489人	11.70%	( )
① 取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師と介護支援専門員との交流会</li> <li>・ ケアマネタイム発行（各医療機関の連絡方法などの情報を冊子にまとめ居宅事業所に配布）</li> </ul>		
⑤ 取組の特徴	医師と介護の連携を密に図れるように医師と介護支援専門員が情報交換できる場を定期的に提供・連絡方法のマニュアル化を実施できるように大和郡山市医師会と地域包括支援センターが連携している。		
⑥ 開始年度	平成22年度		
⑦ 取組のこれまでの経緯	平成20年度高齢者包括ケア体制モデル事業で大和郡山市が県と協同で医師と介護の連携の実態について調査を行った。これによりケアマネは医師と連絡方法に悩み、医師はケアマネに関わりを持ちたいと考えていることがわかった。顔の見える関係作りを目指し、医師会と包括支援センターで話し合った。		
⑧ 主な利用者と人数	市内医療機関医師（67機関71名）、市内居宅介護支援専門員（33事業所、80名） 毎月1回 医師1名 介護支援専門員10名を募集して開催		
⑨ 取組の実施主体及び関連する団体・組織	大和郡山市地域包括支援センター 大和郡山市医師会		
⑩ 市区町村の関与（支援等）（※2）			
⑪ 国・都道府県の関与（支援等）（※3）			
⑫ 取組の課題	市内医療機関数・居宅事業所数が多い為、一度に参加できる人数が限られてしまう。		
⑬ 今後の取組予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流会の継続。ケアマネタイムの定期的更新発行。</li> <li>・ 顔の見える関係作りの更なる構築（多職種連携）</li> </ul>		
⑭ その他			
⑮ 担当部署及び連絡先	大和郡山市地域包括支援センター 0743-55-7733		

※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を（ ）内に記載してください。

※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。





## 医師と介護支援専門員との交流会 意識調査（抜粋）

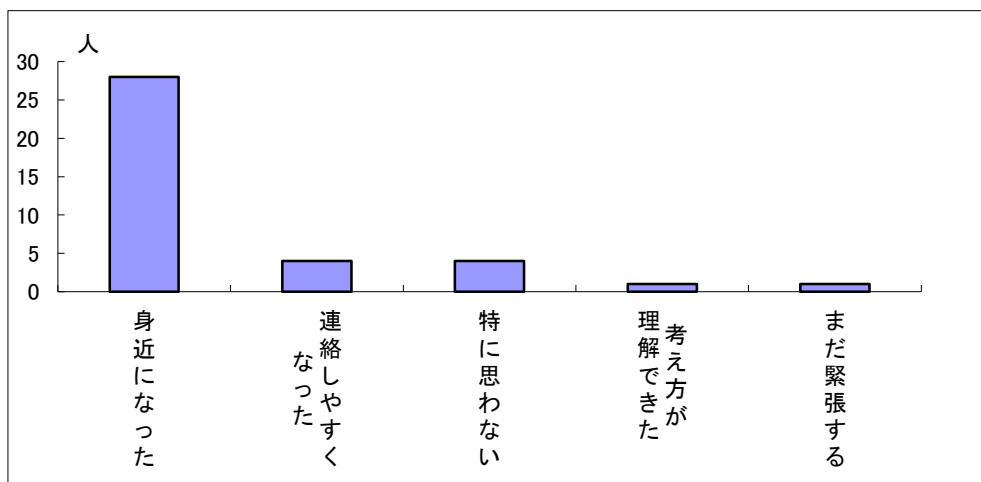
実施日：平成25年3月

対象者：市内居宅介護支援事業所33カ所 介護支援専門員（施設ケアマネ除く）75名

回収数：69名（回収率 92.0%）

◆ 今まで交流した医師とは身近に感じられるようになりましたか？ （単位：人）

身近に感じられるようになった。相談しやすくなった。	28
連絡をとりやすくなった。	4
接する機会がない。特に思わない。	4
医師の介護保険に対する考え方が少し理解できた。	1
医師に対しては緊張する。	1

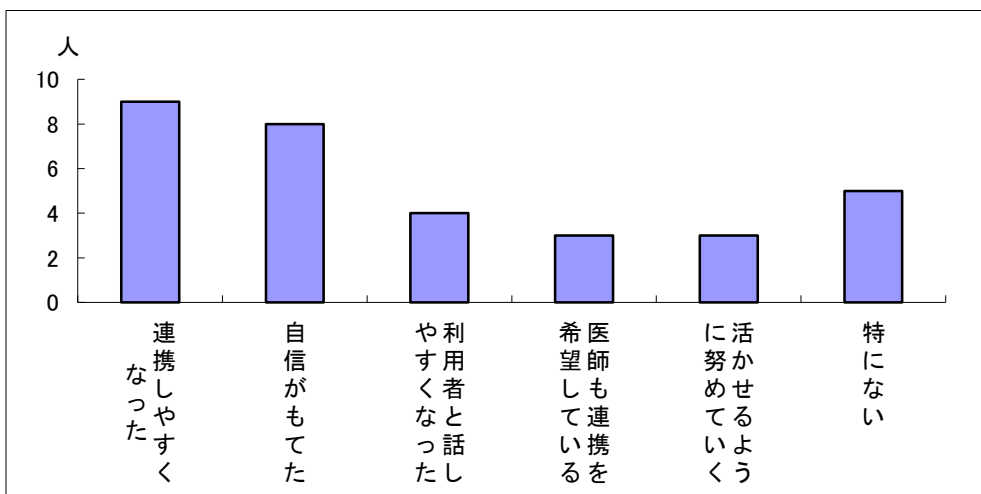


◆ 医師との交流会を通じて、日常業務で活かせることはありましたか？

（活かせた内容）

（単位：人）

顔の見える関係ができ医師に相談しやすくなり連携をとりやすくなった。	9
医師の言葉で自信が持てた。ケアに活かすことができた。	8
医師を知ることで利用者や家族と話がしやすくなった。	4
医師も介護との連携を希望していると知ることが出来た。	3
今後活かせるように努めていく。	3
特にない。あまり感じない。	5





◆ 今後、交流会に希望することはありますか？

(単位:人)

・医師のケアマネに向けての意見なども聞きたい。	6
・今のようにざっくばらんな雰囲気が良い	4
・医師や医療職を交えての事例検討会。	4
・具体的なテーマを事前に1つ決めて意見交換したい。	3
・もっと多くの医師にお会いしたい。	2
・病院の特徴などを教えてほしい。	2
・ぜひ参加したい。	1
・小規模で際々行って欲しい。	1
・他の職種との交流会もあればと思う。	1
・同じ医師とも定期的に交流できる機会。	1
・特にない。	5

